

宮津市が進める「コミュニケーション教育」

「話し合う・創る・表現する」ワークショップを通じた子どもたちのコミュニケーション能力の育成

コミュニケーション能力が求められる背景

社会の変化と子どもたちに求められる能力

- ◆21世紀は、知識基盤社会の時代であるとともに、グローバル化が一層進む時代である。多様な価値観が存在する中、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々とともに、異なる意見や考えなどを交換し、正解のない課題、経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代。
- ◆このような時代を生きる子どもたちは、積極的な「開かれた個」（自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら社会に貢献することができる個人）であることが求められる。

「グローバル化や産業構造の変化などから、社会が要求するコミュニケーション能力の質の変化」

「環境の変化に必要なコミュニケーション教育が置いていけない」

「全国的に少子化、核家族化、地域社会の崩壊などから子どもが大人とコミュニケーションを取る機会の減少」

グローバル・コミュニケーション・スキル（異文化理解能力）

- 異なる文化、異なる価値観を持った人に対しても、きちんと自分の主張を伝えることができる。
 - 文化的な背景の違う人の意見も、その背景（コンテキスト）を理解し、時間をかけて説得・納得し、妥協点を見出すことができる。
- 以上のような能力をもって、グローバルな経済環境でも、存分に力を発揮できる能力。
※OECD（経済協力開発機構）でも、PISA 調査を通じてこの能力を重要視。

宮津市「学力向上プラン」

- ◎「質の高い学力の充実・向上」を目指し、「基礎・基本の徹底」「論理的思考力や表現力の育成」「ICTを活用した学習意欲の喚起、個別最適な学びと協働的な学びの実現」の3点を目標としている。
- ◎とりわけ、「論理的思考力や表現力の育成」は、身に付けた知識・技能をどのように使うかという視点から、思考力・判断力・表現力を高める言語活動を充実させ、論理的思考力や表現力の基盤である言語を使いこなす能力を高める取組を進めている。
- ◎論理的思考力や表現力の育成、認知能力と非認知能力の一体的な育成を進める上でもコミュニケーション能力は重要である。

宮津市の子どもたちの現状や課題

- ◆基礎的・基本的な内容が定着しにくい状況が小学校中学年期から見られること
- ◆算数・数学において授業改善や補充学習、家庭学習支援等の取組による効果が現れないこと
 - ➔ 要因として、言語力の弱さがあり、読解やイメージ化、表現する場面に課題が見られ、思考力を高めたり、体験と学びをつなげたりすることが必要。
 - ➔ さらに、最後まで粘り強く取り組む力、学びに向かう力など、いわゆる非認知能力の育成が大きな課題。
 - ➔ 知識・技能の定着を図る学習に加えて、思考力・判断力・表現力を育てる学習を進めるとともに、学校以外での学習時間が少ない傾向があることから家庭学習の習慣を身に付けることが重要。

コミュニケーション能力を育成するためには 意図的・計画的に設定

①自分とは異なる他者を認識し理解すること

②他者認識を通して自己の存在を見つけ、思考すること

③集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと

④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと

演劇ワークショッププログラム

計画 検証

宮津市コミュニケーション教育推進委員会

- ・実施計画策定
- ・演劇活動などの芸術表現を用いたプログラムの開発と実施
- ・教育効果の検証
 - ◎「他者認識、自己認識の力の向上」
 - ◎「伝える力の向上」
 - ◎「自己肯定感と自信の醸成」
 - ◎「学習環境の改善」
 - ◎「授業改善や学級・学年経営への効果」

宮津市教育委員会

- ◎開催校への指導・助言等
- ◎地域への周知・普及

協力・連携

関係団体等

- ◎学校のニーズに合わせて芸術家をコーディネート
- ◎事前準備。事後評価を効果的に実施

指導・助言

幼・小・中 学校等

◎芸術家や劇団員等と担当教師が連携し、計画的・継続的なワークショップ等を実施

- ◆総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な展開 ※正解のない課題に創造的・創作的に取り組む
- ◆演劇的活動などの表現手法を取り入れたワークショップの実施 ※外部講師の授業・活動への参画
- ◆創作やグループでの話し合い等の活動課程を重視 ※「導入」「展開」「ふりかえり」の課程を仕組む

連携・調整

総合的な学習の時間の中で、演劇的活動などの表現手法を取り入れたワークショップなどを通して、宮津市の児童生徒がこれからの時代に求められるコミュニケーション能力の基礎が培われるとともに非認知能力の育成・向上が図られるようにする。